

浸水被害を軽減する方法

普段から

「マイタイムライン」を作成しましょう。

災害時に適切な行動がとれるように、避難先や避難のタイミング、避難の準備をいつ誰がするのかなどを具体的に考え、家族の「マイタイムライン」を作成しておきましょう。家族の避難先や連絡先は、本誌裏表紙にも記入しておきましょう。

岡崎市ホームページ (防災ポータル) いざというときの避難

URL <https://okazaki-bousai-portal.transmod.jp/sonae/97/>



◀マイタイムラインをダウンロード

側溝や排水溝の清掃をしましょう。

雨水がスムーズに流れなくなると、雨水がたまり、浸水が発生します。普段から側溝や排水溝の掃除をして、水はけを良くしておきましょう。



保険・共済に加入しましょう。

浸水被害からの生活復旧には、想像以上の費用がかかります。水害に対応した保険や共済に加入しておくことで、生活復旧への支援が受けられます。



家屋



家財



車両



保険

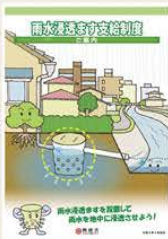
市の補助を活用し、風水害に備えた対策をしましょう。

岡崎市では、風水害の被害を最小限におさえるため、以下の補助を行っています。

雨水浸透ます支給制度

制度内容 雨水浸透ます設置に係る材料支給

対象建築物 都市計画区域内で新築、改築または増築に伴い雨水ますを設置する建物



雨水貯留浸透施設設置補助制度

制度内容 雨水貯留浸透施設を設置するための工事費または材料費の2分の1を補助 (上限9万円、千円未満の端数は切捨て。施設毎の上限設定あり)

補助対象 ・公共下水道事業計画区域内
・宅地又は雑種地に設置する雨水貯留浸透施設

- ①既存浄化槽転用雨水貯留槽
- ②雨水貯留タンク
- ③雨水浸透ます
- ④雨水浸透管
- ⑤雨水浸透側溝



止水板等設置工事費補助制度

制度内容 止水板等の設置工事費・関連工事費の2分の1を補助(上限50万円)

対象建築物 都市計画区域内の、過去に浸水被害を受けた、又は実績・氾濫解析により浸水の恐れのある既存の建物



お問合せ先

土木建設部河川課 市役所 西庁舎3階 TEL:0564-23-6899

お問合せ先

上下水道部サービス課 市役所 西庁舎6階 TEL:0564-23-6338

瓦屋根耐風対策事業費補助制度

補助対象 令和3年12月31日以前に葺かれた瓦屋根

制度内容 耐風対策のため行なう瓦屋根診断、瓦屋根改修の費用の一部を補助する制度 ※改修は基準を満たさない部分全ての改修が対象 診断費補助は上限2.1万円、改修費補助は上限55.2万円

大雨が予想される段階

大事なものを高いところへ上げましょう。

水に浸かってしまうと、家財や家族の思い出の品も一瞬にしてゴミと化してしまい、浸水後には街中がゴミであふれかえることとなります。できる限り家財を高いところへ上げましょう。



当面の衣類など



通帳・印鑑など



家電製品



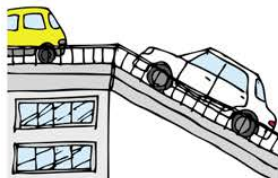
アルバムなど思い出の品

屋外の作業は大雨が降る前に

物干しざおや物干し台は寝かせ、風で飛ばされそうな植木鉢やゴミ箱などは、室内に入れておきましょう。窓や屋根の補強などは、早めに終わらせておきましょう。



自家用車を早めに安全な場所へ移動しておきましょう。



エアコンの室外機や配線類から漏電の危険性があります。ブレーカーを落としておきましょう。



浄化槽に土砂や泥が浸入しないように、浄化槽のフタがしっかりと閉まっているか確認しましょう。また、プロアー（浄化槽ポンプ）の電源を切り、高い場所へ移動しておきましょう。



簡易水防工法で浸水を防ぎましょう。

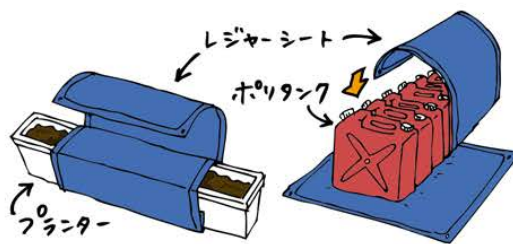
簡易水防工法は、家庭にあるものを使って家屋への浸水や流入を防ぐ方法で、水深が浅い段階では有効です。玄関などの出入口のみならず、床下への浸水の防止も重要です。



40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。

出入口に板などを設置し、浸水を防ぎます。

止水板



水を入れたポリタンクや土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。

岡崎市では大雨などによる浸水を防ぐために、市内31か所に土のうを集積した「土のう倉庫」を設置しています。自宅などが浸水する恐れがあるときに、どなたでも自由に使用できます。利用方法の詳細はホームページをご確認ください。

<https://www.city.okazaki.lg.jp/1100/1113/1177/p000000.html>

思わぬ場所からの浸水を防ぎましょう。

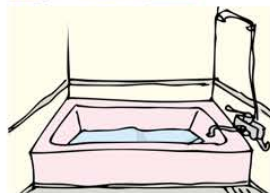
建物の周辺が浸水すると、下水が逆流して、排水口などから水が噴き上がることがあります。水を入れたビニール袋などを置いて、逆流を抑えましょう。



床下が浸水すると、床下収納のふたが開いて水が入ってくる場合があります。重しをして浸水を防ぎましょう。



下水が逆流すると、トイレから水が噴き上がることがあります。水を入れたビニール袋などで重しをしましょう。



風呂の浴槽の水は流さずに溜めておきましょう。下水の逆流を防ぐことができ、生活用水としても利用することができます。

急な浸水被害に備え、浸水警報装置を活用しましょう。

市内15か所の路上浸水計が浸水を感じたら、サイレンやメールでお知らせします。

浸水の段階に応じて、財産を守るための行動や避難をしましょう。

第1段階

床下浸水・車両の被災が予想されるときサイレン



車を安全な場所へ移動するなど、浸水に備えてください。

第2段階

床上浸水が予想されるときサイレン



差し迫った危険から身を守るため、自宅の2階、近所の高層階、近くの高台、公民館などに避難してください。